



文の構造

▼指導ページ P 4～17▼

☆指導のポイント☆

(1) 自立語と付属語

自立語＝それだけで文節をつくれる。1つの文節に必ず1つの自立語。

付属語＝それだけでは文節をつくれな。1つの文節に1つもない場合や2つ以上ある場合もある。

(2) 複合語・派生語

「意味の上でこれ以上分けられない名詞が2つ以上の部分でできている

＝「複合語」と「接頭語や接尾語がついた単語＝派生語」→複合語・派生語は1つの単語としてあつかう。

(3) 文節の関係

「主語・述語」「修飾語・被修飾語」「対等」「補助・被補助」の関係がある。

板書例

<p>基本問題 13</p> <p>問一</p> <p>「述語」に注目。「みえない」 「主語」に次に着目。「みえない」ものは何か。「上半身は」 「腰を」↓「曲げて」を説明 「曲げて」↓「畑に」を説明していない。「入った」を説明 「畑に」↓「入った」を説明 「入った」↓「おばあさん」を説明 「おばあさん」↓「上半身は」を説明</p>	<p>問四</p> <p>何の花が↓主語で花のことを指す どのように↓様子を表している部分を探す ↓文末を「風景。」にする</p>	<p>基本問題 12</p> <p>定番問題</p> <p>「そして」 前の部分の内容を受けて、後に当然の結果が続く 「しかし」 前後の内容が、対立・反対の関係となっている 「たとえば」 後に続く部分で例を示す 「ところで」 話題の転換が行われる</p>	<p>基本問題 6・7・8</p> <p>文節の関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「何が―どうする」「何が―どんなだ」「何が―何だ」 ↓《主語・述語の関係》 ● 「何を・いつ・どこで・どのように」など他の文節を説明する文」と 『説明される文節』の関係 ↓《修飾・被修飾の関係》 ● 二つ以上の文節の内容や役割が対等 ↓《対等(並立)の関係》 ● おもな意味の文節と、その文節に意味をそえる文節との関係 ↓《補助・被補助の関係》
--	---	--	--

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題 3 (P8)	(1) 付属語に注意。「ようだ」「です」「ながら」「が」「を」「の」など。それだけでは文節をつくらな。自立語といっしょに1つの文節をつくることを確認させる。 (2) 「こそ」は付属語で、強調する意味を付け加えている。 (3) 倒置の表現技法。主語と述語の順序が入れかわっていることに注意。 (4) 主語が省略されている場合。「もしもし」は呼びかけをあらわす語。「まあ」「ああ」「おい」「はい」「うん」「いいえ」「おはよう」「よいしょ」などの語と同じ仲間の語。 (5) 述語が省略されている場合なので注意。
基本問題 13 (P13)	問一 板書例参照。 問二 接続語は「ので」。付属語で「その結果」という意味を持つ語。意味から、自立語の接続詞「だから」に置き換えられる。 問三 主語は文節なので「虫の声は」ではなくて「声は」となるので注意。「声は」は2つの述語をともなっていることに注意。 問四 なぜ＝おばあさんの心情を読み取らせる。傍線部の直前のわたしの言葉で、おばあさんは安心して喜んでいる。

2

説明文・論説文

話題と要点

▼指導ページ P 18 ~31▼

☆指導のポイント☆

- (1) 話題をとらえる…筆者から読者に問題を問いかける形で話題を提示する場合がある。また、文章の中で繰り返し使用される語が話題と関わる場合がある。
- (2) 形式段落の要点…1つの形式段落に、1つの要点がある。当然の結果や言い換えなどを表現する接続語に注意して、段落のまとめの部分を見つける。多くの場合に、段落の最初または最後の部分に述べられている。

板書例

練習問題 1

クマノミ⇨イソギンチャクに入って住む

- クマノミにとっての利益
- ↓「イソギンチャクから保護してもらう」
- イソギンチャクにとっての利益
- ↓「寄生虫を食べてもらう」
- 「イソギンチャクを食べる魚を追いかけて死なないのか」

なぜ、クマノミはイソギンチャクに刺されて死なないのか

- クマノミの体⇨厚い粘膜で覆われている
- 慣れる手続き
- ⇨クマノミがイソギンチャクに自由に入出入りできる手続きがある
- ⇨時間が必要

基本問題 2

- 日本⇨日本人⇨日本語⇨日本人にとって当たり前
- ↓世界⇨国家と言葉が重なる⇨少ない
- ↓日本人⇨日本語について考えることが少ない

【話題】 日本語⇨今後とその問題点

- 外来語⇨日本語化⇨生活の中から生まれる
- ↓語彙が増える⇨文化の交流・進歩で積極的に生活に入る
- ↓カタカナ⇨便利
- ↓外来語が多い⇨劣った言語ではない

基本問題 1

【話題】 クジラの飲み水

- 海水 ⇨浸透圧の作用⇨体から水分をうばう
- ⇨飲んではいけない
- クジラは水を海水からとれるように適応しているのではない
- ↓陸上哺乳類と同じ⇨のどがかわいてしまう
- ↓食物にふくまれる海水
- ↓胃の中に海水が入らないような食べ方
- 水を食物からとる方法
- クジラの食べるイカなど⇨体液の塩分が濃い⇨使えない
- 水を体内で作る方法
- 脂肪を分解⇨代謝⇨水をつくる
- 「尿⇨塩分を排泄」・「呼吸・汗⇨水分を失わないようにする」

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題 1 定番 (P20) 問一 問二 問三 問四 問五 問六	① = 問題を新たに提起している。 ② = 前後の形式段落の内容が対立の関係になっている。 読者に疑問を提示する形をとっている。10行目に注目。 4行目に注目。 形式段落④に注目。 38～40行目に注目。 体内で分解することで「水」をつくる栄養素として「脂肪」「炭水化物」「タンパク質」があげられていることに着目。 体内から水をとる方法を示した形式段落を読み取らせる。
基本問題 2 (P22) 問一 問二 問三 問四 問五 問六 問七	形式段落⑦に着目。 ① = 形式段落⑤と⑥で対立の内容となっていることを読み取らせる。 ② = 具体的な例を上げていることから判断。 「日本=日本人=日本語」という関係に着目。15行目に注目。 直後で内容を言い換えていることに着目。 直後の部分の内容から推量させる。 いずれの形式段落も最初に要点が述べられている。 形式段落⑫に着目。
練習問題 1 (P24) 問一 問二 問三 問四 問五	① = 前後の内容が対立。 ② = 当然の結果が後の部分に続く。 ③ = 内容が自然に続く。 ④ = 後の部分で条件を付け加えている。 「識別」については話題として取り上げられていない。 (1) 10行目に注目。 (2) 14行目に注目。 形式段落③の後半部分に着目。 形式段落⑦の段落の書き出し「このように」に注目。その前の段落の内容を受けていることから判断させる。

3

説明文・論説文 段落関係と要旨

▼指導ページ P 32～45▼

☆指導のポイント☆

- (1) それぞれの形式段落の要点をとらえる。次に、形式段落の書き出しの語や指示語にも着目して、形式段落の関係をつかむ。文章の構成を明確にする。話題を提示する部分・説明をおこなう部分・筆者の主張や考えを明らかにする部分に区分する。
- (2) 文章の構成→3つの型がある。
 - ①「話題―筆者の主張・考え」→「話題や筆者の主張・考えについての説明」
 - ②「話題―筆者の主張・考え」→「話題や筆者の主張・考えについての説明」→「筆者の主張・考え」
 - ③「話題」→「話題や筆者の主張・考えについての説明」→「筆者の主張・考え」
- (3) 文章の構成を明らかにして、要旨をとらえる。

板書例

<p>練習問題1</p> <p>【話題】 方言↓放逐↓共通語だけになってしまふ↓いいのいか？</p> <p>● 共通語の問題 ↓ きのめの細かい表現が不足</p> <p>◎ 新潟県 ↓ 雪に関する語彙 ↓ 発達</p> <p>◎ 「鹿児島あたり ↓ カツオ」・「日本 ↓ 魚」</p> <p>・「ヨーロッパ ↓ 牛」</p> <p> 関心が大きいもの 語彙が豊か</p> <p>【筆者の考え】 共通語 方言から栄養を取り入れることが大切</p>	<p>基本問題2</p> <p>● 「食」にこだわりすぎて心身の調子を崩す人がいる</p> <p>↓ 健康のために食事を気をつけてきたのに、それが原因で身体が調子が悪くなった 例診療に来た女性</p> <p>【話題】 「健康のためには食べ物に気をつけなくてはならない」との考えに縛られている人が増えている</p> <p>● 「身体によいこと」と「心のストレス」とのバランスをとること ほんとうに大切なこと : ほどほどにしておく</p> <p>● いちばん健康によくない 「食べたくないものを食べること」 「食べたいものをまったく食べない」</p> <p>● プラセボ効果 信じた人にだけ効果が現れること</p> <p>【筆者の考え】 「なるべくは身体にいいことをやりたいけれど、続けるのはなかなか難しいよね……」というくらいがちょうどいい</p>	<p>基本問題1</p> <p>【話題】 子ども 動物を飼う ↓ 知識を得る</p> <p>● 金魚を飼う場合</p> <p>「飼育経験のある子 飼育経験のない子と比べる」</p> <p>金魚についての問い 正しい答え 2倍多い</p> <p>飼育の未経験な金魚と類似の動物についての問い</p> <p> 正しい予測</p> <p> 獲得した知識をもとに類推</p> <p>● 幼稚園や保育園で動物を飼っている子ども</p> <p>飼育活動の中で疑問 ↓ 自分で納得できる説明</p> <p>【筆者の考え】 人の学習 環境に対して能動的</p> <p> 人はそこから知識を構成</p>
---	--	--

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
<p>基本問題1 定番 (P34)</p> <p>問一</p> <p>問二</p> <p>問三</p> <p>問四</p> <p>問五</p>	<p>1 = 後に前の順当な結果が述べられている。(順接の関係)</p> <p>2 = 前と別的话题(例)を並べてあげている。(並列の関係)</p> <p>形式段落1・2に着目。</p> <p>9・10行目に着目。</p> <p>「金魚」の飼育に関わることの質問という点に注意。</p> <p>「金魚」ではない類似した動物に関する事柄という点に注意。</p> <p>前に述べられている事実をまとめて、自分の考えを述べている形式段落を見つけさせる。</p>
<p>基本問題2 (P36)</p> <p>問一</p> <p>問二</p> <p>問三</p> <p>問四</p> <p>問五</p> <p>問六</p> <p>問七</p>	<p>文末に注目させる。問題提起なので、「～でしょうか」。</p> <p>傍線部の直前部分をまとめさせる。</p> <p>1 = 前の話題と並列の内容だと分らせる。 2 = 接続詞の後が理由になっていることに注目させる。</p> <p>3 = プラセボの説明をしたあとに、具体例を出していることに注目させる。</p> <p>6、7段落をまとめさせる。</p> <p>前の段落でプラセボについて説明している。「信じ込ませて飲ませれば」という部分に注目させる。</p> <p>「本末転倒」の意味を説明してから、具体例のあった1段落～6段落に注目させる。</p> <p>作者の言いたいことが最後の段落に書かれているので、そこから判断させる。</p>
<p>練習問題1 (P38)</p> <p>問一</p> <p>問二</p> <p>問三</p> <p>問四</p> <p>問五</p> <p>問六</p> <p>問七</p>	<p>「なくす」という内容から判断。</p> <p>3～5行目に注目。読者に疑問を示す形の文に着目。</p> <p>10・11行目に注目。</p> <p>「語彙」が豊かであること = 関心が深い → 51・52行目に注目。</p> <p>直前の部分に着目。</p> <p>筆者の主張 = 文章の最後の形式段落に着目。</p> <p>「話題の提示」「新潟県の雪の話」「カツオ・魚・牛についての話」「筆者の主張」 = 文章構成。</p>

4

物語文 場面と情景

▼指導ページ P 46 ~59▼

☆指導のポイント☆

場面を読み取る・場面から読み取る

- (1) 「時」「場所」「人」「できごと」の項目に注目。物語がどのように展開しているかに注意して、内容を明確にする。
- (2) 「時の経過」「場所の変化」「中心的な登場人物のちがひ」「中心的な登場人物の心情の変化」「できごと・事件の発生・進展」などによって、場面は転換する。接続語にも注意を向ける。
- (3) 展開を読み取る。「場面」の転換を読み取ることで、物語の展開を読み取り、もっとも中心的な場面をとらえる。中心的な場面をとらえることで、物語の主題を読み取る。

板書例

<p>練習問題1</p> <p>使いのとき、鮓屋の前を通る</p> <p>仙吉 鮓を食べたい 〓 あきらめ</p> <p>↓ のれんをかけた鮓屋の方へ歩く 〓 食べたい</p> <p>若い貴族院議員Aが、のれんをかけた鮓屋に入る</p> <p>仙吉 〓 Aをおしのけて鮓屋に入る 〓 鮓を食べたい</p> <p>↓ 躊躇 〓 お金がたりるか気になる</p> <p>↓ やはり、お金がたりない</p> <p>↓ 一度手にとった鮓をもどす</p>	<p>基本問題1</p> <p>海の上</p> <p>「一平」 マービを網に追い込むために、サバニで沖に運ばれる</p> <p>↓ マービの大群を見る ↓ 大人の仲間入り</p> <p>〓 榮譽・緊張</p> <p>海の中</p> <p>「一平」 長老の合図で海に飛び込む ↓ 海水を飲む</p> <p>〓 弱音を吐かない</p> <p>↓ マービを網に追い込む 〓 全身に力</p> <p>↓ 「初子先生」「園子」の笑顔を思う</p> <p>〓 力がさらに出る</p> <p>海辺</p> <p>「網を引き上げる男たち」 凱旋將軍のよう</p> <p>「村の女たち」 浜で待っている</p> <p>「初子先生」「園子」 浜辺に近寄るサバニに声をかける</p> <p>↓ 大助 〓 最良の日</p>	<p>基本問題2</p> <p>都大会の試合の最終回</p> <p>あたしとお菊の対戦</p> <p>第二球目 〓 ストレート ↓ タイミングをつかむ</p> <p>あたし 〓 周囲の景色がぼやけ、お菊だけにピントが合う</p> <p>↓ 集中</p> <p>第三球目 〓 スライダー? ↑ 離れていた期間に進歩した</p> <p>← ストレート ↑ 力でねじ伏せる…容赦がない</p> <p>あたし 〓 食らいつく</p> <p>セーフ 〓 内野安打 〓 お菊のノーヒットノーランを阻止</p> <p>あたし 〓 お菊 〓 いい勝負 〓 相手を認め合う</p>
--	--	---

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題1 定番 (P48)	指示語は直前を探す。「その上」とあるので、「サバニの上」になる。 場所を特定できる語「沖」や「海水」「海中」に着目。 問一 「一平」が海中で具体的に何をしたかを読み取らせる。40～42行目に注目。 問二 「一平」はおそろしい、とは思っていないことに着目。 問三 「大助」も緊張。15・16行目に注目。 問四 直後の「一平」の様子から判断。
基本問題2 (P50)	問一 直後の段落に「打席を外し、何度かスイングを繰り返した」という部分に着目する。 問二 ① = 「笑いながら」に合う擬態語を選ぶ。 ② = 「起きあがって」に着目させる。 ③ = 「帽子を直すふりをしつつ」「わたしを見た」という場面から連想させる。 問三 ア「～今にも泣き出しそうな様子」はあたしには当てはまらない。 イ「～お菊のしなやかなフォームに見とれている様子」は本文に書かれていない。 ウ「～神経を集中させている様子」直前に「自分の打席に集中する」とある。 エ「～動揺している様子」は本文に書かれていない。 問四 傍線部の直後のあたしの態度に着目させる。 問五 傍線部の直後の「感謝」が何を指すか考えさせる。
練習問題1 (P52)	問一 鮓を食べることを、あきらめきれない「仙吉」の気持ちを読み取らせる。 問二 6行目に注目。 問三 39行目から「鮓屋の主」が、料金の支払いに関して気にかけていることを読み取らせる。 問四 「仙吉＝小僧」は鮓が食べられないとあきらめていた理由は、その価格が高いからである。このことから、「のれんをかけた鮓屋」でも、「仙吉＝小僧」の関心は「価格」であるから、食べたい鮓を取って手を引くときに「仙吉＝小僧」を躊躇させた原因もその点であることを読み取らせる。 問五 ⑤ = 期待していた鮓を食べることができなかったことから推量。 ⑥ = どうしたらいいのか、次の行動を迷った様子から判断。 問六 41行目の言葉の内容から推量。 問七 板書例参照。

板書例

<p style="text-align: center;">③</p> <p>「畑」「水田」の違いを考えてみる。「畑」と日本の「水田」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>筆者の考え 「水田」と「畑」の違い</p> <p style="text-align: center;">↓ 社会・経済体制の違い</p> <p style="text-align: center;">↓ 民族性・文化に影響</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ● 日本「水田」水田を「つくるとき」「管理するとき」 ⇨ 共同の作業 ⇨ 共同体 ⇨ 棚田 ⇨ 整然・美しい ● ヨーロッパ「畑」おおらか ● 日本とヨーロッパの比較⇨心にくる 	<p style="text-align: center;">②</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%; padding: 5px;">場面</td> <td style="width:50%; padding: 5px;">「サキ」の心情</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">「サキ」がテントの外に出る ← もうれつな雨 雨の中のテント</td> <td style="padding: 5px;">⇨ 雨の勢いにおどろく ⇨ 米をとぐことは「ユウキ」にたのもう ⇨ びっくり↓くずれてしまいそう ⇨ 広い峠に三人しかいない⇨状況がわかる ⇨ 自分たちのことは自分たちでするしかない ⇨ 自分はだらしないう⇨ユウキに負けられない</td> </tr> </table>	場面	「サキ」の心情	「サキ」がテントの外に出る ← もうれつな雨 雨の中のテント	⇨ 雨の勢いにおどろく ⇨ 米をとぐことは「ユウキ」にたのもう ⇨ びっくり↓くずれてしまいそう ⇨ 広い峠に三人しかいない⇨状況がわかる ⇨ 自分たちのことは自分たちでするしかない ⇨ 自分はだらしないう⇨ユウキに負けられない	<p style="text-align: center;">①</p> <p>その日</p> <p>「ぼくたち」⇨警官に審判をたのむ</p> <p>⇨ 警官⇨引き受ける⇨はりきる</p> <p>野球の試合が始める</p> <p>⇨ 「ぼく」⇨不安⇨試合が警官のペースになる⇨的中⇨不快⇨不調</p> <p>⇨ 「ぼく」の盗塁⇨成功</p> <p>⇨ 「ぼく」⇨気持ちのがほせる⇨警官への不快な思いを忘れる</p> <p>⇨ 「ぼく」のホームへのすべりこみ</p> <p>⇨ 「ぼく」⇨アウトとわかっていた⇨警官の判定がおそい</p> <p>⇨ 警官⇨「ぼくの無謀な盗塁⇨好ましい」</p> <p>● 「アウトの判定」</p> <p>◎ 「ぼく」⇨「警官⇨正しい判断のできる人」⇨「警官を信頼」</p>
場面	「サキ」の心情					
「サキ」がテントの外に出る ← もうれつな雨 雨の中のテント	⇨ 雨の勢いにおどろく ⇨ 米をとぐことは「ユウキ」にたのもう ⇨ びっくり↓くずれてしまいそう ⇨ 広い峠に三人しかいない⇨状況がわかる ⇨ 自分たちのことは自分たちでするしかない ⇨ 自分はだらしないう⇨ユウキに負けられない					

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
<p>① (P60)</p> <p>問四 問五 問六 問七 問八 問九 問十</p>	<p>通常の判断の中で予定されている「自転車」の速度を超えて走る様子から判断。</p> <p>23行目に着目。「的中」した不安の内容は直前の段落に着目。</p> <p>28～30行目に注目。</p> <p>「ぼく」から「警官」に対して行った行為に注目。46・47行目に注目。</p> <p>「すべりこみ」に対する「警官」の気持ちと行為を読み取らせる。</p> <p>板書例参照。</p> <p>「警官」は「ぼく」にとっての大人の象徴として描かれている。</p>
<p>② (P62)</p> <p>問一 問二 問三 問四 問五</p>	<p>37・38行目に注目。</p> <p>具体的な内容＝39行目に注目。</p> <p>25・26行目に注目。</p> <p>直後の部分に注目。「サキ」たちの置かれている状況が描かれている。</p> <p>(1)「サキ」の気持ちの描かれた部分に着目。19・20行目に注目。</p> <p>(2)「サキ」の気持ちの変化するきっかけ→36～38行目に描かれていることを読み取らせる。</p>
<p>③ (P64)</p> <p>問一 問二 問三 問四 問六 問八</p>	<p>(1)「私」が「水田」と「畑」の違いに気づいたのは、ヨーロッパを旅したときだ、ということを読み取らせる。</p> <p>37・38行目に注目。(2)39行目に注目。</p> <p>「水田」と「畑」の違いに気がついたことの内容は41行目に述べられているが、設問の条件に合う表現を見つけさせる。10・11行目に注目。</p> <p>① = 新しい視点を提示。 ② = 対立する内容。 ③ = 当然の結果。</p> <p>直前に述べられた「水田」に関わる事柄を読み取らせる。</p> <p>直前に述べられた利害対立の内容をまとめさせる。</p> <p>最初の部分で話題を示し、それに続いて筆者の考えが述べられている。7～12行目に着目。</p>

6

説明文・論説文 話題・考え・根拠・要旨(1)

▼指導ページ P 68 ~ 81 ▼

☆指導のポイント☆

キーワードなどに注目し、文章全体の話題(問題)をとらえる→形式段落ごとの要点を読み取る→文章を意味段落に分け、構成をとらえる→「中心的な役割」・「説明する役割」という意味段落の役割を確認する→要旨を理解するポイントに基づき、文章全体を総合して要旨をとらえるという「説明文」・「論説文」の読み取りの手順を理解させる。

板書例

基本問題 1

【話題】 日本人 ↓ 海外の仕事 ↓ 自分のシステムをおしつける

インドの例 青年海外協力隊での体験

幼稚園で鍵をかけさせないようにする ↓ 不可能

鍵をかけることへの考え方

● インドの場合 ↓ 普通

● 日本の場合 ↓ 鍵をかける考え方のちがいが ↓ 欧米人・インド人と比べる
 ↓ 鍵をかけない

筆者の考え ↓ 文化のちがいが ↓ 価値基準 ↓ 同じではない ↓ 認識が大切

基本問題 2

【話題】 文明社会の心配な点

● 人々 ↓ 孤独になっている・家庭が密室になっている

● 重要な行動 ↓ 生産・労働 ↓ 行動がおそい

● 重要でない行動 ↓ 消費 ↓ 行動がはやい

● ことば ↓ 人間味 ↓ 感じられない

筆者の考え ↓ 今の「ゆたか」な社会 ↓ 本当によい社会とはいえない

練習問題 1

【話題】 宇宙のある理由

● 昔の考え方 ↓ 「唯一全体」 ↓ 当然のもの ↓ 考えること ↓ 意味がない

● いまの考え方 ↓ 区切られた世界

↓ さまざまな宇宙 ↓ 「われわれにとっての宇宙」
 ↓ かわりのある範囲

● 「われわれにとっての宇宙」 ↓ 特徴 ↓ 知的生命のいる宇宙
 ↓ 宇宙の存在を認識

「宇宙のある理由」 ↓ 人間 ↓ 宇宙の存在を認識したから

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題 1 (P70)	定番 問一 [1] = 後に続く部分で例を述べている。 [2] = 前後の内容が対立の関係。 [3] = 44行目の「から」に注意。 問二 16~18行目に注目。 問三 日本人の鍵に対する考え方が述べられている部分に着目。31・32行目に注目。 問四 直前の部分に着目。 問五 筆者の考え = 54~56行目に注目。
基本問題 2 (P72)	問一 2・3行目に注目。 問二 18~20行目に注目。 問三 29・30行目に注目。 問四 「孤独」の意味から判断。10~14行目に注目。 問五 「鈍化」 = 「にぶい」から判断。 問六 本来の意味における「幸せ」ではないことを表現するために、カタカナという表記を使ってその区別をしていることを読み取らせる。
練習問題 1 (P74)	問一 理由を説明する「なぜなら~から」に着目。3・4行目に注目。 問二 [1] = 前後で対立する内容となっていることに着目。 [2] = 結論を後に述べている。 [3] = 後に続く部分で前の内容を説明している。 [4] = 事柄を並べている。 問三 「昔からあった考え方」と「今の考え方」を整理させる。 問四 「特徴」という語に注意。42・43行目に注目。 問五 直後の部分に着目。その考えが述べられている。 問六 59・60行目で [*] を含む「 」部分の内容を言い換えていることに着目。 問七 直前の形式段落に着目。

7

説明文・論説文 話題・考え・根拠・要旨(2)

▼指導ページ P 82 ~95▼

☆指導のポイント☆

話題をとらえる→問いかけの文やキーワードに注意する→「中心的な役割」の段落と具体例や補足が書かれている段落を区別する
→結論に注目して要旨をつかむという「説明文」や「論説文」の要旨をとらえ方の流れを理解させる。また、文末の表現に注目する、最後の段落に注目するといった筆者の主張を見つける上のポイントに注意させる。

板書例

基本問題1

●未開の人々の数え方

↓**コク**の原理のもとになっている法則の一つではないか

↓**コク**「たくさん味の味が混じっている」という感覚

●それぞれの味覚の中にも味物質の違いによって微妙な違いがある

↓これらの多くの味覚をうまく動員して複雑な味わいを作り出す

⇐**コク**↑甘味は重要な要素

●甘味のない世界

・砂糖⇐砂糖のような味

・コーラ⇐ただの炭酸水

・アラニンやグリシン⇐ただの無味の粉

・まんじゅう⇐砂糖のかたまり

・チョコレート⇐石けんの固まり

・ケーキの生クリーム⇐練り歯磨き

・みそ汁⇐厳しい味

⇐**コク**の感覚は甘味抜きではありえない

基本問題2

●ほんとうの友だち⇐「どんなことでも相談し合える」相手…一般的

⇐「お互いに」相手への気遣い

「水臭い関係」…筆者

●真の友情⇐ゆつくりと時間をかけて友情を育てる

●やさしい気持ち⇐いい人間関係を育む

練習問題1

●スーパーに卸す…規格どおりのものをつくらなければならない

●流通業者⇐消費者は形の悪いものを買わないと信じている

●流通⇐値段から何からすべてを握っている

⇐生産者⇐赤字でも捨てるより売ったほうがいい

●いまいちばん強い⇐消費者・いちばん弱い⇐生産者

=

・食べ物が増えている⇐消費者が強い

・食べ物が増えなくなる⇐生産者が強い

⇐食料の生産高と消費量の問題

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題1 定番 (P84)	問一 1 = 前の段落の内容に注目させる。 2 = 前後の内容から判断させる。 問二 同じ段落から、筆者がコクについてどう思っているかを探させる。 問三 味醂について説明されている場所を探させ、文末は「～から」にさせる。 問四 直前の文章に着目させる。「あまりに食べ物が変わってしまった」→「笑わずにはいられない」 問五 直前の「むしろ」という言葉に着目させる。
基本問題2 (P86)	問一 ア 本文に書かれていないので不適當。 イ 「主に甘いものが好きな人たちによって支えられていると」は書かれていないので不適當。 ウ 本文に書かれていないので不適當。 問二 問題提起 = 問いかけ。 問三 「そんな」は指示語なので、傍線部より前から探させる。 問四 7 段落に書かれていることから判断させる。 ア 竹馬→「竹馬の友」…幼なじみ イ 無二の…かけがえのない ウ 無上の…この上ない エ 同志…同じ志をもった人 問五 13 段落に着目させる 問六 16 段落をまとめさせる。 問七 筆者が一番いいことを消去法で選ばせる。
練習問題1 (P88)	問一 接続詞は、前後の文脈から判断させる。 問二 3 段落の問題提起を 4 段落で回答していることに気づかせる。 問三 5 段落目の頭で「値段から何からすべてを握っている」と書かれている部分に着目させる。 問四 消去法で、本文に書かれていない選択肢は除かせる。 問五 11 段落に書かれていることを理解させ、あてはまる言葉を入れさせる。

8

物語文 人物の性格と心情

▼指導ページ P 96 ~ 109 ▼

☆指導のポイント☆

登場人物の人物の「性格」「心情」のとらえ方を理解させる。性格や心情を直接的に表現した「言葉」や「行動」「会話の内容・言葉づかい」「様子」に着目する。また、場面の変化と登場人物の心情の変化のつながりについておさえさせる。

板書例

基本問題 1

山 晴れた日

◎ 少女 枯れ枝 ↓ 捨てる

● 菜の花 「少女」を呼ぶ ↓ (仲間がいないから) さびしい

↓ 麓の村へ連れて行ってほしい

◎ 少女 かわいそう ↓ 「菜の花」を村へ連れて行ってあげよう

路にそった小さな流れ

● 菜の花 見ついで ↓ うなだれる

◎ 少女 菜の花を流れの水につける ● 菜の花 元気 ↓ うれしい

◎ 少女 菜の花を流す ● 菜の花 不安 ↓ (流されるのが) こわい

◎ 少女 駆けて 「菜の花」について行く ↓ やさしい気持ち

● 菜の花 安心 ↓ うれしい

基本問題 2

祖父 林太郎の家

祖父 やさしい目 ↓ 洪作 緊張

糸さんと話をする 椎茸の「ほた木」の並ぶところ

洪作 祖父の椎茸作りの話 「ほた木」 美しい

祖父の家にもどる ↓ 祖父と話

洪作 祖父 ↓ 一番好き・尊敬の気持ち

唐平と話を

唐平 口下手 ↓ 将来 「先生」か「椎茸作り」

洪作 将来 決めていない自分 ↓ 遅い気がする

洪作は眠れない

洪作 祖父 尊敬する人 発見 ↓ 興奮

練習問題 1

七匹の子猫が消える

● 「はやて」 「お祖母さん」の話 (猫捕りの話) ↓ 不安

↓ 「あやめさん」の話を聞く

↓ 「シロ」が「子猫」を隠している

永齋寺

「はやて」 門柱の陰で「シロ」を待つ ↓ 「シロ」の後を追う

古い物置の中

「はやて」 「シロ」が隠した子猫 ↓ 見つける

「シロ」 ↓ 「はやて」を威嚇 「子猫」を守る様子

● 「はやて」 驚く ↓ 心が熱くなる ↓ 感動

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題 1 (P98)	<p>定番 問一 「ここ」は菜の花が咲いている場所。少女の「こんな所」という発言の直前に注目。</p> <p>問二 会話中の「なぜ」に注意。</p> <p>問三 直後の行為から、「少女」が「菜の花」の願いをかなえてあげようとしたことを読み取らせる。直後の部分から「少女」が思いついた考え＝水の流れに「菜の花」をつける→時間的に、「当惑」した後＝イは適当ではない。手の「熱」について、「少女」は全く気に留めていなかった＝「熱」→「首がだるい」という「菜の花」の話の内容＝直ぐには理解できなかった→ウ・エは適当ではない。</p> <p>問四 (1)「菜の花」の気持ちを「少女」が表現している会話に注目。38行目注意。 (2)「菜の花」の心配はどういったことによって解決したか、から推量。</p> <p>問五 「不安」の反対。</p> <p>問六 《●「菜の花」のさびしい気持ちを理解する。●「菜の花」の願いかなえてあげようとする。●「菜の花」の様子から判断して元気にしてあげるために流れの水につける。●「菜の花」といっしょに流れにそって駆けていく。》→「やさしい」少女。</p>
基本問題 2 (P100)	<p>問一 「祖父」の家にもどった場面。</p> <p>問二 「洪作」の様子を確かめるように見る表現。</p> <p>問三 《「ほた木」＝それまで「美しい」と思わない→「祖父」の椎茸作りの話→「美しい」と思う》という気持ちの変化から判断。</p> <p>問四 「祖父」＝47・48行目に注目。「唐平」＝53・55行目に注目。</p> <p>問五 将来のことを考えている「唐平」に比べて「洪作」は何も考えていないことに気がつき、落ち着かない気持ちになっていることを読み取らせる。</p> <p>問六 尊敬できる人を発見→うれしい→「興奮」</p>
練習問題 1 (P102)	<p>問一 「顔が青くなる」＝「心配・不安」を表す表現。</p> <p>問二 11・12行目に注目。</p> <p>問三 「はやて」の行動と40行目から推量。</p> <p>問四 49行目に注目。</p> <p>問五 「和尚さん」の直後の会話の反省している内容から判断。</p> <p>問六 55・56行目注目。「和尚さん」の「はやて」に対する願いは何かを読み取らせる。</p>

☆指導のポイント☆

非現実的な世界を描いた作品の文章から、登場人物の心情・文章の主題を読み取らせる。作品の中の現実の世界を描いた部分との対比に着目することで、非現実的な世界の内容が描かれている部分の登場人物の心情や、できごとが作品の中で意味することを読み取る。

板書例

<p>練習問題1</p> <p>「アル」＝僕 「エラソーニ」＝人間は現実には生きていく動物 「ダダ」＝人間は未来を求め、友達でいたい ↓二人のことも忘れる</p> <p>「アル」＝僕 「エラソーニ」＝二人を忘れたくない 「エラソーニ」＝感動を忘れない生き方 「ダダ」＝人間は現実には生きていく生き方</p>	<p>基本問題2</p> <p>消灯した布団の中 小さな弟＝唯一のメイリンキン奏者 ↓ザトウクジラの浮袋の表面に魚の鱗・飛び魚の胸びれの弦 メイリンキンを演奏する場所 ⇒海辺：海からの風が吹かないと、音が出ない 僕「聞いてみたい」 ↓小さな弟＝息を吹き込む メイリンキンの音色 微かだけれど、揺るぎない響き ・海の底から長い時間を経て、ようやくたどり着いたという安堵 ・更に遠くへ旅立ってゆこうとする果てのなさ</p>	<p>基本問題1</p> <p>梅雨明けを予告 「ぼく」＝「ペドロ」の話 ↓「一郎」の非難に対して ↓「ぼく」を仲間はずれにしようとする ↓「ぼく」の話</p>	<p>基本問題1</p> <p>十九日＝稲妻がなる 「ぼく」＝予告どおりに雷 「一郎」＝金歯が心配</p>	<p>基本問題2</p> <p>雷が落ちる 「ぼく」＝「ペドロ」の予言が当たる 「みんな」＝「ぼく」の予言が当たった 「大作」＝「ぼく」の力におどろく</p>
--	--	---	--	--

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題1 定番 (P112)	問一 * = 前後が逆の内容。(逆接) アは順接, ウは説明, エは転換をあらわす。 問二 13行目から始まる「ぼく」の会話に着目。 問三 「一郎」にとって雷とはどのような存在か、に注意。42・43行目に注目。 問四 40行目に注目。 問五 「ぼく」の予告が当たったことを、喜ぶ気持ちの表現ということを読み取らせる。
基本問題2 (P114)	問一 副詞は前後をよく読んで、あてはまるものを選ばせる。 問二 線①より前から読み取らせ、字数にあてはまる言葉を見つけさせる。 問三 線②の直後に、弟が鳴麟琴のどんな人物かを読み取らせる。 問四 線③の直前で弟が話した内容を聞いて、「聞いてみたい」と思ったので、弟の会話から読み取らせる。 問五 線④の直後から読み取らせる。
練習問題1 (P116)	問一 50行目に注目。 問二 A = 直前の「アル」の言葉が疑問の形で終わっていることに注目。 B = 直前の「エラソーニ」の言葉使いから判断。 C = 直前の「ダダ」の会話の内容から推量。 問三 直前の「ダダ」の話の内容を証明し「アル」に分からせようと「エラソーニ」が聞いてきた。 問四 直前の「ダダ」の言葉の内容が信じられないという驚きを表していることを読み取らせる。 問五 54行目に注目。 問六 44・45行目に注目

板書例

1

- 形式段落① 【話題】＝場の倫理観について
日本＝場の倫理観を大切に考える
- 形式段落②・③・④・⑤＝日本・アメリカの比較
日本＝自分の主張や考えより「場」の平衡が大切
アメリカ＝自分の主張が大切
- 形式段落⑥・⑦・⑧・⑨＝「場」という考え↓日本・アメリカのちがいを説明
日本＝「個」が曖昧な「場」の倫理
アメリカ＝「個の倫理」
- 形式段落⑩・⑪＝両者の長所・短所
「場」の倫理＝「場」の中の弱者に対して配慮
↓曖昧・時間がかかる
「個」の倫理＝弱者に対してきびしい↓能率

2

授業の場面1
ミツエ＝「逆上がり」ができない＝恥ずかしい↓鉄棒が近い感じ

授業の場面2
ミツエ＝「逆上がり」ができない者＝トツクン↓できない

放課後
ミツエ＝「逆上がり」をやってみたい気持ち↓練習
↓「逆上がり」ができた＝「眼帯がとれたような気持ち」
●「まわりの空気にヒビが入ったような感じ」＝うれしい

3

- 衣生＝一週間後には、家の屋根を突き抜けた
↓住宅の内部から突然出現した大木
- 衣生＝ブナに似ている
- 私の気持ち＝衣生が桜や藤の木にならなかつたことが嬉しかった
↓多くの生き物たちに生命の糧を与える木となったから
- 衣生が屋根を突き破った日
↓おばあちゃんは隣町へ引越した
- 私の気持ち＝いつでも衣生に会いに行けるようになって嬉しい
衣生＝わたしとよく似た女の子の姿をしていた
↓夢のよう
- 成長することから、たくさんの実を落として仲間を増やした
↓多くの命をいなく森になっていた
- 私の気持ち＝衣生の子を身ごもったように、**幸せ**

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
<p>1 (P124)</p> <p>問一 問二 問三 問四 問五 問六</p>	<p>直後の①を説明した部分に注目。</p> <p>形式段落⑩の書き出しに注意。②の直後の形式段落からその直前の形式段落まで例が述べられていることを読み取らせる。</p> <p>直後の段落で③のときの筆者の心の動きを述べている部分に注目。</p> <p>筆者の考える「場」について述べられている箇所に注目。</p> <p>46・47行目に注目。</p> <p>⑥について「場」の倫理と比較して「個」の倫理を述べている部分に着目。66・67行目に注目。</p>
<p>2 (P126)</p> <p>問一 問二 問三 問四 問五 問六 問七</p>	<p>「死ぬくらい」いやな気持ちを表現。「ミツエ」の気持ちが描かれている部分に注目。</p> <p>4～6行目に注目。</p> <p>A＝落ちることから判断。 B＝巻きつく、という内容から判断。 C＝はねる様子を表現する。 D＝揺れている感覚を表す。</p> <p>直後の部分 20・21行目に注目。</p> <p>42・43行目に注目。</p> <p>49～51行目に注目。</p> <p>授業のなかで「逆上がり」ができるようになるかもしれない、という予感を「ミツエ」が感じていたことを推量させる。</p>
<p>3 (P128)</p> <p>問一 問二 問三 問四 問五 問六</p>	<p>傍線部の前の部分から、衣生の様子を描いた部分を探させる。</p> <p>傍線部の直後に理由が書かれているので、そこから字数にあてはまる部分を書き抜かせる。</p> <p>1＝押し上げている様子を選ばせる。 2＝「範囲を広げる」という部分の着目させる。 3＝「大きく～ふるわせ」という部分に着目させる。</p> <p>直前にある「エクス」に注目させる。</p> <p>直後にある「畏敬の念」が意味するものが、傍線部の前に書いてあることを分らせる。</p> <p>最後の段落に「幸せだった」とある。</p>

11

特殊な文章(報道文・脚本)

▼指導ページ P 132 ~ 145 ▼

☆指導のポイント☆

- 報道文の「見出し・リード・本文」といった型を理解し、記述された事実の内容を正確にとらえられるようにする。
- 脚本の用語や決まりを理解し、「前書き」「場面とあらすじ」「登場人物の性格と心情」といった脚本を読み取るポイントに注意する。「せりふ」の内容だけでなく、「前書き」「ト書き」からも登場人物の性格や心情をとらえることができることを理解させる。

板書例

練習問題2

問一	1	2	3	4
	「大っ嫌い」	「…カレン、なーんて」	「イイイ」	「そうじゃなくってえ…」
	↓強い ↓さっぱりとした口調	↓重くならない口調	↓ふつうの会話ではない表現	↓おそろおそろ
	◎【エ】	◎【ア】	◎【イ】	◎【ウ】

基本問題2

問二 「太郎」⇔人間になる ↓ 「一郎」⇔人形になる
 ⇔ 「一郎」の「お父さん」⇔《むち・おしり・三十五回ぶつ》
 ↓ ひどい目 ↓ 「人間」いやだ ↓ 人形⇔返りたい

基本問題1

図書館の改修工事

- 老朽化が進むとともにスペース不足で全面改修
- レンガ造りの建物は、外観を損なうことなく、全体の耐震性を向上させた省エネ構造
- 児童書のコーナーの中央：円型になった板張りの広いスペース
↓子供たちが靴をぬいで自由に本を読むことができる
- 1階の閲覧コーナー：弧を描いた木製のカウンター
↓読書スペースも充実し、ゆっくり読書を楽しむことができる
- 2階⇔視聴覚資料室
↓自由に使える学習机や飲食ができる休憩スペースもある

新設：申し込み制の社会人専用室
 図書館ボランティア⇔書架の整理や本の修理、絵本の読み聞かせ
 閲覧コーナーの入口付近：「今月のおすすめの本」など
 ●開館時間30分延長

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題1 定番 (P134) 問一 問二 問三 問四 問五 問六 問七	何の話題なのかを意識させる。 要約のことをリードという。 直後の段落に注目させる。 直前の部分に注目させる。 傍線部分が指しているのは、児童書コーナーと1階部分であることに気づかせる。 「今回新設されたのは」とある部分に注目させる。 傍線部の直後に書かれている。 本文に書かれていない選択肢の箇所に線を引かせて、分からせるとよい。
基本問題2 (P136) 問一 問二 問三 問四 問五 問六 問七	[A] = 「ひどいことをされた」内容から推量。 [B] = 意外な事態の展開に驚いた様子の「花子」のせりふから推量。 [C] = 「神様」にお願いする様子を表現させたい。 [D] = 人間にもどる展開から推量。 [E] = 直後の「二人」の様子から、「二人」によって感情表現をさせたい。 「太郎・春子」 ↔ 「一郎・花子」 = 人間・人形の入れ替わる展開に着目。 10行目の「太郎」と55行目の「お父さん」のせりふに注目。 板書例参照。 58行目に注目。 直後の「大事」に注意。 「一郎」「春子」のいつもの行動を推量させる55行目から始まる「お父さん」のせりふに注目。
練習問題2 (P139) 問一 問二 問三	板書例参照。 傍線部の直前に注目させる。 「かれん」 = 「芸能人を想像させる名前→実際に会うと相手を失望させてしまうだろう」

☆指導のポイント☆

- 詩の種類や形式を正確にとらえられるようにする。「比喩」、「倒置法」、「対句法」、「反復法」、「呼びかけ」、「体言止め」といった表現技法について理解させる。
- 「場面や情景」、「表現技法」、「心情を表す表現」といったポイントに注目し、主題を読み取れるようにする。

板書例

<p>練習問題 1</p> <p>◎ 駝鳥 〓 四坪半で飼う ↓ なぜ? ◎ 駝鳥 〓 脚 ↓ 大きい ● 頸 ↓ ながい ● 羽 ↓ ぼろぼろ ● 眼 ↓ 遠くを見る ↓ 大自然の自由 ↓ 待つ ↓ 小さな場所に買われる 〓 かわいそう ◎ 人間 〓 自分勝手 〓 いかり</p>	<p>基本問題 2</p> <p>◎ 目 ↓ 見ること ◎ 耳 ↓ 聴くこと ◎ こころ ↓ 感じること ↓ たのしむ</p> <p>◎ 比喩 ↓ いらぬ ◎ 描かれていない色 ↓ 見る ◎ 聴こえない音楽 ↓ 聴く ◎ 語られない言葉 ↓ 読む ◎ たのしむ 〓 沈黙に聴きいる</p>	<p>基本問題 1</p> <p>◎ 肩 ↓ つながる ◎ 人 ↓ 「空」をかつぐ ◎ きょう ↓ きょう ◎ おとな ↓ 子ども ◎ きょう ↓ あした ◎ 空 〓 重さ・輝き・暗やみ ↓ 移す ↓ 少しずつ</p>
--	---	--

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題 1 定番 (P148) 問一 問二 問三 問四 問五 問六 問七 問八	口語+行数・音数が決まっていない=口語自由詩 「空をかつぐ=ひと」→「おとな→子ども・きょう→あした」 「ように」に注意。 ことばの「くり返し」に着目。 「みんなでかつぐ→多くの人々が協力している」から推量。「空=社会」が適当。 「おとな」と「子ども」という対比から推量。 (1)「ちいさい」に注意。(2)13行目に注目。 表現技法に注目。 「空」をしっかりと支え合っている「おとな」たちが、その「空」を「子ども」たちに移していく、ということの意味を考えさせる。
基本問題 2 (P149) 問一 問二 問三 問四 問五 問六 問七	口語+行数・音数が決まっていない=口語自由詩 直喩…「～のように」を使って例える。 隠喩…「～のように」を使わずに例える。 体言止め…文末を体言(名詞)にする。 擬人法…人でないものを人のように例える。 倒置法…文章の順序を入れ替えて強める。 最初の段落をまとめていることに注目させる。 「語られない」という言葉に着目させる。 9行目の具体例が10~12行目であることに注目させる。 アと間違えやすいので、「安定感」より「力強いリズム感」というところに注目させる。 本文に書かれていない部分に線を引かせて分らせる。
練習問題 1 (P152) 問一 問二 問三 問四 問五 問六	口語+行数・音数が決まっていない=口語自由詩 後の表現に使われている「過ぎる」に着目。駝鳥の様子から推量させる。 駝鳥の置かれている状態への批判を読み取らせる。 本来の駝鳥の住む土地に吹く風を表現。 通常の表現とは、語順が異なる箇所を探させる。 12・13行目から「人間」の「駝鳥」に対する行為への批判を読み取らせる。

☆指導のポイント☆

- 「文学的随筆」(物語風・生活文風・紀行文風)「論理的随筆」(論説文風) = 随筆文の種類により、それぞれの特徴をとらえた読み取り方を身につける。随筆文の構成をとらえて読み取ることができるようにする。
- 年齢・職業・身分・性格などの筆者の人物像、話題、体験と感想、体験の共通点、主題というポイントに注目し、随筆文の内容を正確にとらえられるようにする。

板書例

練習問題 1

● 私と盲導犬ベルナの行動

役所 || 建物に入る || 受付の人に盲導犬についての説明

レストラン || 断られる

バス || 盲導犬に口輪 || 犬にとっては苦痛

↓ 「おばあさん」 || 犬に何かされるかもしれないと心配

↓ 運転手 || 乗客に説明

↓ わかってくれる人たち ↓ 車内 || なごやか

↓ 安堵 ↓ うれしい

基本問題 2

子どもの頃 || 「ほたる」を捕ることが好き

「ほたる」を川に捕りに行く || 熱中

今 || 家の前の田 ↓ 「ほたる」がいる || うれしい

思い出す ↓ 高校二年生の夏 || 将来 ↓ あこがれ・不安

「ほたる」の光 || 渦になっている光景 || うつくしい

|| 今も心に残る

今の思い || 眼の前の「ほたる」の光 || 小さい || いとおしい

基本問題 1

子どもの頃 || 銭湯

● 都市 ↓ みんなのための施設

● 背中を流し合う || 大人と会話 ↓ 一人前

● 江戸時代・明治時代 ↓ 時代の雰囲気 || 裸で感じる

● 叱られる || マナー・礼法 ↓ 教えられる場

● 雪の道 ↓ 「お年寄り・女の人・重い荷物を持った人」

|| 道 || ゆずる ↓ 言葉を交わす

← さまざまな人との交流 || 子どもが育つ

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題 1 定番 問一 (P162) 問二 問三 問四 問五	* = 後の文が前の文を説明している。(説明の補足) アは順接、ウは逆接、エは並列をあらわす。 3行目及び16・17行目に注目。 直前の言葉に注目。 41～43行目に注目。 (1)32行目の「だけでなく」に注目。 (2)「銭湯」と「雪道」の話題で共通する事柄はなにか。それぞれ内容を整理させる。 《「銭湯」→「大人」との会話や「雪道」→言葉を交わすこと》→筆者の主張を読み取らせる。
基本問題 2 問一 (P164) 問二 問三 問四 問五 問六 問七	「ほたる」を捕りに出かけたことから推量。 22行目に注目。 「ほたる」の様子を描いたもので、6字で表現されている箇所を見つけさせる。43・44行目に着目。 「高校二年生」の夏のことから、「二年」後とはいつのことか理解させる。 直前の部分に注目。 「今」と「思い出」の部分に分けられることを読み取らせる。 「今」見ている「ほたる」の光であることから、現在の境遇と重ね合わせて表現している。
練習問題 1 問一 (P166) 問二 問三 問四 問五 問六 問七	「楽しくないこと = 受け入れてくれない社会」ということに着目。17行目に注目。 その前の「役所」を訪れたときの「私」の様子から推量。 「盲導犬に口輪をはめる → バスに乗る → イスを探す → イスに座る → 盲導犬をダウンさせる」といった結果、イスに座れることができほっとした「私」の気持ちを読み取らせる。 その後の「運転手さん」の言葉から推量。 「役所」の場面に「私」の盲導犬の説明が描かれている。 この場面は「バス」の中であることから判断。 「役所」という語に着目。

☆指導のポイント☆

- 旅先での筆者の見聞や体験の紹介→筆者の心情→筆者の意見・感想という紀行文の構成を理解し、文章の全体像をつかめるようにする。
- 筆者の背景、話題、体験と感想、主題というポイントに注目し、紀行文の内容を正確にとらえられるようにする。

板書例

練習問題 1

シロフクロウ↓ツンドラに探す
一九八八年↓シロフクロウ・卵↓見つける↓卵を守る親から攻撃
↓撮影を始める
コクガン↓営巣↓シロフクロウの巣の近く
↓シロフクロウに襲われる危険↓信じられない

筆者の考え

- コクガン「北極ギツネに卵をとられないため」
↓「シロフクロウに襲われない」ことに賭ける
↓自然↓物語↓人間↓読めない
- コクガン・シロフクロウ↓ヒナ↓無事、巣を去った

基本問題 2

「私」⇨旅↓タクシーを使う
「タクシーの運転手さん」⇨いい人⇨旅も楽しくなる
「木曾の旅」↓タクシー↓若い運転手
⇨旧道を歩いた話
⇨昔の人の安全への考え方に感じるものがあつた
⇨「人間・足・馬力」という表現

「私」⇨若い運転手さんの行動と表現に感心

基本問題 1

◎「ナポリっ子」⇨ナポレターノ」⇨時間におくれる⇨気にしない
⇨のん気

(例) ●イタリアのテレビ⇨時刻のお知らせ⇨八時「頃」
●イタリアの鉄道⇨遅れる
「日本」⇨新幹線⇨二分遅れ↓わびる
↓筆者⇨日本に帰ってきた実感

筆者の「日本人」への思い

きちんとしている中↓ひとつでもダメ⇨すべてがダメ
●日本人⇨「ナポリっ子」のおおらかさ↓みならいたい点もある

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題 1 (P176)	<p>定番問一 問二 問三 問四 問五 問六</p> <p>1 = 前後の部分で対立する内容。 2 = 話題の転換。</p> <p>16行目に注目。</p> <p>16行目に注目。「あと」に伸びる場合として、定刻に遅れることが述べられていることから推量。</p> <p>この段落の内容を整理させる。日本に対比して述べられている事例としてイタリアが挙げられている。25・26行目に注目。</p> <p>「時間に正確ではなくて遅れる」ことを気にしないイタリアの都市の人たちを表現する語が入る。6行目に注目。</p> <p>38行目の表現から「わびる」ことを軽蔑したりはしていない。イタリアとの対比で日本を述べていることから判断。</p> <p>42行目以降に着目。日本人の行動への筆者の感想が述べられている。</p>
基本問題 2 (P178)	<p>問一 問二 問三 問四 問五 問六 問七 問八</p> <p>2行目で「私」の性格を述べた部分に注意。</p> <p>8・9行目に注目。</p> <p>14～16行目に注目。</p> <p>わかる、ということに注目。16・17行目に注目。</p> <p>「誰が思ったか」を読み取らせる。</p> <p>(1)直後の若い運転手の会話の中で、「私」が特に興味をひかれた「ことば」は何かを読み取らせる。26行目に注目。 (2)24・25行目に注目。</p> <p>《「妙」=とても上手なこと》から理解させる。</p> <p>若い運転手が旧道を歩いた行為と彼の会話に対して「私」はどういった評価をしているか、を読み取らせる。形式段落④に注目。</p>
練習問題 1 (P180)	<p>問一 問二 問三 問四</p> <p>(1)直前の部分に注目。(2)筆者は、会った後にどういった行動をとったか。18行目に注目。</p> <p>シロフクロウによる攻撃と分かるので、「卵」という語から攻撃の理由を推量。</p> <p>(1)25行目に筆者の驚きの気持ちが述べられている。10字でまとめて表現させる。(2)27・28行目に注目。 (3)34～41行目に注目。</p> <p>42行目に注目。</p>

板書例

● 「私」 || 「おじさん」の話で気がつく || はずかしい
↓ つながっている

● 「おじさん」 || きびしい表情 || 「おじさん」の話
|| 人も魚も自然の中で生きるもの

● 「私」 || かわいそう

● 「おじさん」 || さばいて、かば焼き

● 「柴づけ漁」でとった「うなぎ」 ↓ 「おじさん」 ↓ 「うなぎ」
|| さばいて、かば焼き

● 「私」 || かわいそう

● 「おじさん」 || きびしい表情 || 「おじさん」の話
|| 人も魚も自然の中で生きるもの

● 「私」 || かわいそう

● 「おじさん」 || さばいて、かば焼き

● 「柴づけ漁」でとった「うなぎ」 ↓ 「おじさん」 ↓ 「うなぎ」
|| さばいて、かば焼き

③
四万十川の「柴づけ漁」をする「おじさん」との話

● 「柴づけ漁」でとった「うなぎ」 ↓ 「おじさん」 ↓ 「うなぎ」
|| さばいて、かば焼き

● 「私」 || かわいそう

● 「おじさん」 || きびしい表情 || 「おじさん」の話
|| 人も魚も自然の中で生きるもの

● 「私」 || かわいそう

● 「おじさん」 || さばいて、かば焼き

● 「柴づけ漁」でとった「うなぎ」 ↓ 「おじさん」 ↓ 「うなぎ」
|| さばいて、かば焼き

②
「私」 || 酔っ払いの世話 ↓ いやだ

● ある朝 ↓ 玄関が開けたままでなので寒い
↓ 代理店・外交員の人たち ↓ 父親が酒をだす ↓ 酔う
↓ 吐瀉物をきれいにする
|| 母親 ↓ 悲しい ↓ 「私」 がかわりにする
|| 汚い仕事をさせられる母親とそうしないと生きていかな
い 「保険会社の支店長 || 父」 に腹が立つ
「私」 の仕事を見ている父親 || 無言
|| 素直に「すまない」といえない

● 東京に帰る日 || 仙台駅
父親からの汚い仕事をしたことへの言葉はない

● 家に帰る
父親からの手紙が届く || 詫び状

①
● ニキビ || 顔
「のけ者」にされるといふ思い ↓ 自分から「のけ者」になる
心の中 ↓ 怒り・まわりに見せる表情 ↓ 冷静 ↓ 独り
↓ 孤独・自己嫌悪
白い鳥になりたい ↓ 「おとな」 になりたい

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
① (P188)	問一 作者の気持ちが、口語で、行数・音数の枠にはめなくて書いてある。 問二 「ように」に注意。 問三 同じ語の「くり返し」に注目。6・7行目に注目。 問四 通常の語の順序ではない部分に注目。14～16行目に注目。 問五 「内」とは自分の心の中→対比する表現として「外」。同様に、「怒り」とは強い感情の動きに対比する感情を選ばせる。 問六 直前の「連」の内容から推量。「独り」という内容に注目。 問七 「海」に関わるものに注意。 問八 (1)・(2)《「空」←「白鳥」→「海」》=どちらにも交わらない=独り 問九 場所の移動や、まわりの者への批判ではなく「自分の成長」を願い気持ちを読み取らせる。
② (P189)	問一 「玄関」の様子が描かれた箇所に着目。8字の指定がヒント。 問二 母親の手について描いた部分から、母親への気持ちを推量させる。 問三 (1)母親にかわって「私」がしている行為に着目。(2)直前の箇所に注目。 問四 26・27行目と39～41行目に注目。 問五 「期待」に注目。「いままでに行われてこなかったこと=今度(こそ)」と期待した「私」の気持ちを読み取らせる。 問六 「私」のその時に行っている作業=母親がやろうとしていた作業。15行目に注目。 問七 7行目に着目。「父親」が立って「私」を見ているところまで。 問八 29行目から「小遣い」のことだと推量させる。 問九 自分の父親に「お言葉」とい表現を使っていること=皮肉な気持ちの表現。 問十 「冬」に着目。 問十一 「お母さん」と「私」のやりとりに着目。 問十二 父親の様子と行為に着目。感謝の気持ちを口には出さなくて、「詫び状」を送ってきたことから推量。
③ (P192)	問一 直後の部分から読み取らせる。 問二 直前の文に注目。 問三 「柴」に着目。話題は「柴づけ漁」。 問四 (1)「さばく」に着目。指示している部分を20字程度で特定することがヒント。 (2)魚をさばくときに「私」が感じることは何かを読み取らせる。31行目に着目。 問五 (1)28行目に注目。(2)26・27行目と43行目の「おじさん」の言葉に着目。 問六 「人間も生き物の一つ→他の生き物の「いのち」をもらう=自分たちの「いのち」をつなぐ→「おじさん」の言葉で気づく→「私」=そうした考えもない→思ったこと→口にした=はずかしい」という内容を読み取らせる。 問七 36～38行目に注目。

☆指導のポイント☆

- 人生・芸術・社会・自然現象などに関する筆者の評論的意見を述べた論説文風の随筆の特徴を理解し、文章の全体像をつかめるようにする。
- 話題、筆者の人物像、体験と感想、段落の要点、主題というポイントに注目し、論説文風の随筆の内容を正確にとらえられるようにする。

板書例

練習問題 1

- 筆者「数式を解くこと好き」
- 複雑な数式のある部分「括弧でくくる」Aであらわす「解くことができる」
- 数学より難しい問題「括弧でくくる」「時間をおく」考え方

↓ 解決できない時「正面から立ち向かう」

↓ 解決できない時「正面から立ち向かう」

基本問題 2

- 筆者「旋盤工」五十年余り
- 「最初」旧式な旋盤「たくみ」
- 「後半生」コンピュータ制御の旋盤「使い捨て可能」
- 「一九七〇年代後半」技術の進歩「旋盤工」変化「旋盤要因」
- 「一九九〇年代」多品種少量「他国にまねのできないものづくり」
- 「日本産業の転換期」
- 「工」を育てること「怠る」町工場廃業
- 「このところ」筆者「大田区・東大阪市の町工場」
- 「最新鋭の工作機器」と
- 《博物館ゆきのような旧式の機械「汎用機」》
- 「若い工」を育てる姿勢「昔のように技術をもつ人を育てる」

基本問題 1

- 山を歩く人「カケス」と「カラス」「区別のつかない人もいる」
- 山の自然「動植物の名前・生態」多くの人「知る気がない」
- 山での「ある人」の体験「山で道にまよう」
- 山で野宿「不安」夜明け「不安がなくなる」
- コマドリの声を聞く「きっかけ」
- 山の鳥「詳しい知識」山の鳥を見る楽しみ
- 山「生き物の生存」戦い」
- 山の自然「考えこませることがいろいろある」

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題 1 (P198) 定番 問一 問二 問三 問四 問五 問六	* = 後の内容が前の内容に付け加わっている(添加)。アは説明、ウは転換、エは順接をあらわす。 10・11 行目に注目。 3・4 行目に注目。「友達」に説明することを「講義」と表現している。 12・13 行目に着目。山の自然を研究している人が「ついで」にすることが、一般の人の本来の目的。 23 行目に注目。 26・27 行目に注目。 最後の文に注目。
基本問題 2 (P200) 問一 問二 問三 問四 問五 問六 問七	文章の書き出し部分に特に着目。筆者の経歴に注目して読み取る。 前後の内容が対立することに着目。 直後の 14・15 行目に注目。 変化→以前の状況と変わること→進歩 = 11 行目に注目。 新しい = 最新鋭。27・28 行目、30 行目に着目。 「かつて」に注意。37・38 行目に注目。 33～36 行目の「工場主さん」の言葉に、筆者も同じ思いを感じていることに着目。
練習問題 1 (P202) 問一 問二 問三 問四 問五 問六 問七	4～6 行目に注目。 「Aが消えてしまう場合→①→Aが整理させる場合」 = 事柄を並べて述べる = 「また」が適当。 14 行目に注目。 直後の「A」に注意。3 行目に注目。 気がつく、ということに注意。26・27 行目に注目。 34・35 行目に注目。 筆者の生き方をまとめて述べた形式段落を見つけさせる。最後の形式段落に注目。

17

短歌・俳句 表現と主題

▼指導ページ P 210～223▼

☆指導のポイント☆

- 短歌・俳句それぞれの形式・表現技法について理解させる。
- 短歌の感動・主題、俳句の情景・感動を読み取れるようにする。

板書例

<p>練習問題 1</p> <p>問十一</p> <p>1 北国「あこがれ」↓うれしい↓「橇・雪」</p> <p>2 反射する光「点滅する光」↓「提灯・螢」</p> <p>3 さびしい天気「家々の明かり」</p> <p>↓「雨」「ともしび」</p> <p>4 力強い「乗り物」↓「帝王」「蒸気機関車」</p> <p>5 子ども「よろこぶ」</p> <p>↓「少年」「かがやく目」</p> <p>6 視覚・聴覚「朝焼け」「とどろく」</p> <p>7 静けさ「個」↓「こだま」「ひとつ」</p> <p>8 乗り物「個人」↓「旅客機」「もつれつつ」</p> <p>9 乗り物「やさしさ」↓「船」「やなしな」</p>	<p>基本問題 2</p> <p>〔季語〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ●季節を、もつともよく表す言葉。 ●俳句は、季語を一つふくんでよまれることが多い。 ●現代につくられた俳句には、季語をふくまないものもある。 ●「その季節らしい花や木、鳥や魚、天候などの自然のもの」や「生活や年中行事といったこと」がら ●古い時代に季語として選ばれた言葉もあるので、現在の季節を表すことからは、ことなる場合もある。 	<p>基本問題 1</p> <p>問十一</p> <p>1 「自然の中でひっそり生きる」</p> <p>↓「他人への思いやり」</p> <p>●「山の中に住む」</p> <p>●「栗のいがを踏まないように心を使う」</p> <p>2 「日常の生活」「季節の移り変わり」</p> <p>↓「トースト」の焼き上がり方に季節の変化を感じ取る</p> <p>3 「命」細やかな動き「雄大な風景」</p> <p>↓「若馬の耳の動きに焦点」</p> <p>↓「山から吹いてくる初夏の風」</p> <p>4 「楽しそう」「かわいらしい」</p> <p>↓「小学生徒」のいきいきとした子どもらしい様子</p> <p>5 「ものがなしい」「音色」</p> <p>↓「病気」の子●ハモニカの音</p>
--	--	---

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
<p>基本問題 1 (P212)</p> <p>問一 問二 問三 問四 問五 問六 問七 問八 問九 問十 問十一</p>	<p>結句の「体言＝名詞・代名詞」に着目。</p> <p>同じ言葉の繰り返しに注意。</p> <p>ふつうの文では、文の終わりにくる部分が最初にきているものに着目。</p> <p>「なり」「たり」は文語。終止形→句切れ</p> <p>「ぬくもり」に注意。「親しき」＝強く暖かさを求めてはいない＝「冬」ではなく「秋」</p> <p>「む」は意志を→「咲こうとしている」</p> <p>「命」に注目。</p> <p>「ようよう」＝「じょじょに」の意味。</p> <p>「春」＝「はげしくない→雨」と「新しい+やわらかい→芽」</p> <p>「ぬ」＝「～したところだ・～に完全になった」の意味。</p> <p>板書例参照。</p>
<p>基本問題 2 (P214)</p>	<p>おもな季語</p> <p>〈春〉 藤の花・菫草(すみれぐさ)・梅の香・桜・山桜・菜の花・椿・牡丹の芽蝶・蛙(かえる)・雀の子・若鮎(わかあゆ)・猫(ねこ)の子・雪残る</p> <p>※注意 「若鮎(わかあゆ)」＝春も終わりのころ→「鮎(あゆ)」＝「夏」の季語</p> <p>〈夏〉 竹の子・白牡丹・麦秋・牡丹・若葉・さくらんぼ・涼風・五月雨・空蟬・螢・黄金虫(金亀子＝コガネムシ)・鮎・蝸牛(かたつむり) ※注意 「麦秋」＝麦の「ほ」が実るころ＝夏の初め</p> <p>〈秋〉 朝顔・鶏頭・桐一葉・柿・彼岸花・ダリア・西瓜(すいか)・虫の声・赤蜻蛉・鈴虫・秋刀魚(さんま)・きりぎりす・花火・夕日・いなびかり(稲妻)</p> <p>※注意 「花火」＝秋のお祭で打ち上げられる習慣が古くからあり、季語は「秋」</p> <p>〈冬〉 寒牡丹・麦の根・寒椿・冬菊・枯れ野・鶴・小春日和・初時雨(はつしぐれ)・大寒・炭</p> <p>※注意 「寒牡丹」＝夏に咲く「牡丹＝夏の季語」を、手をかけて「冬」に咲かせたもの＝「冬」の季語</p>
<p>練習問題 1 (P216)</p> <p>問一 問二 問三 問四 問五 問六 問七 問八 問九 問十 問十一</p>	<p>結句の「体言＝名詞・代名詞」に着目。</p> <p>擬人法＝人でないものを人にたとえる。</p> <p>ふつうの語順と逆になっているものに着目。</p> <p>D＝倒置に着目。</p> <p>「橇に乗ること」↔「踏みしめていく」</p> <p>「少年」の親＝「父」＝「子」に「自転車を買う」</p> <p>目に見えない→脚→飛行機の中の脚</p> <p>「カモメ」→海→「船」</p> <p>「わたる」→「電車」→「橋」</p> <p>「客待ち」→「人力車」</p> <p>板書例参照。</p>

板書例

③

問一

「先生」↓「みんな」|| 「先生」はどんな俳句をつくるのだろう

●期待

← 先生の句||五十音・カ行

← ▲意外↓「当意即妙」の「機知」がかくされていた

← ◎喝采(かつさい)

②

問四

句切れ || ふつうの文では、「句点」が入るところ。

|| 「初句切れ」 ↓五／七七七七

|| 「二句切れ」 ↓五七／五七七

|| 「三句切れ」 ↓五七七／七七

|| 「四句切れ」 ↓五七七／七七

「句切れなし」 ↓句の途中で、区切らないで読む

← 作者の心の動き ↓リズムを生む

①

●悲しむことや泣くこと || 人間らしい自然の反応
笑うこと・泣くことはどちらも大事
↓
身体の免疫力の向上
↓
このころの状態もバランスを取り戻す

●「このころ萎えた状態」 || 常識では悪↑筆者 || そうではない
例 金沢の「雪吊り」 || 枝が折れてしまうのを防ぐ
↓
しなうものや曲がるもの || 折れない
← 堅いものや強いもの || 折れる
← ころも同じ ↓ 「このころ萎えた状態」 || ころがしなっている状態

●いまの時代 || 人々がストレスを感じている(大変な時代)
ストレスをすべて背負って抱え込んだままがんばっている
↓
いつか必ず折れてしまう

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
① (P224)	問一 [1] = 具体例の後に「つまり」とある。 問二 [2] = 「ものすごい重さになる」に加えて「なかなかすべり落ちない」。 問三 傍線部の次の段落に泣いたときの効果が書かれていることに注目させる。 問四 傍線部の段落の冒頭部分に注目させる。
② (P226)	問四 最後から2番めの段落に「つまり」とあることから、最後の2段落が本文のまとめになっていることに気づかせる。 問一 4・5行目に注目。 問二 「万葉集」= 奈良時代にまとめられた歌集。日本最古の歌集。 問三 「ばら」のいきいきとした「芽」と春の「雨」の様子を表していることを読み取らせる。 問四 E= 初句切れ→イ = 「初句切れ」。ふつうの文で考えて、「句点」が入る。 問五 E= 「春」の季節を表す「季語」= 「草わかば」→「山吹」= 工 問六 [a] = 「髪」→「少女」→ [b] = 「やはらかき」 [c] = 「貝」→「耳を澄ます」 [d] = 「草わかば」= 「緑」 [e] = 「色鉛筆」= 「赤」 問七 [a] = 「誇りと自信」に注目。 [b] = 「ひっそり」「聞く」に注目。 [c] = 「自分自身」で楽しんでいることに注目。
③ (P228)	問一 「みんな」の期待をはぐらかす = 「五十音・カ行」→「意外」→そのあとの「喝采」へとつながる。 問二 「発つ」→「たつ」→「たちつてと」 問三 子どもでも知ってる「五十音」→それを使って、そのときの気持ちを良く表した句をつくる「技」。 問四 先生の句を期待する気持ちを表す語を選ばせる。 問五 「中年男」が俳句を書く短冊を受け取ったことに対して「小馬鹿」にした話の展開から推量させる。 問六 「月」についての句を作ることに苦心している様子をさがさせる。 問七 この場合の「アッ」は「なんとみごとに、今の月をよんだ句だ」という意外な驚きを表していることを読み取らせる。 問八 26行目と36行目に注目。「機知」の効果と楽しさを述べていることに着目。